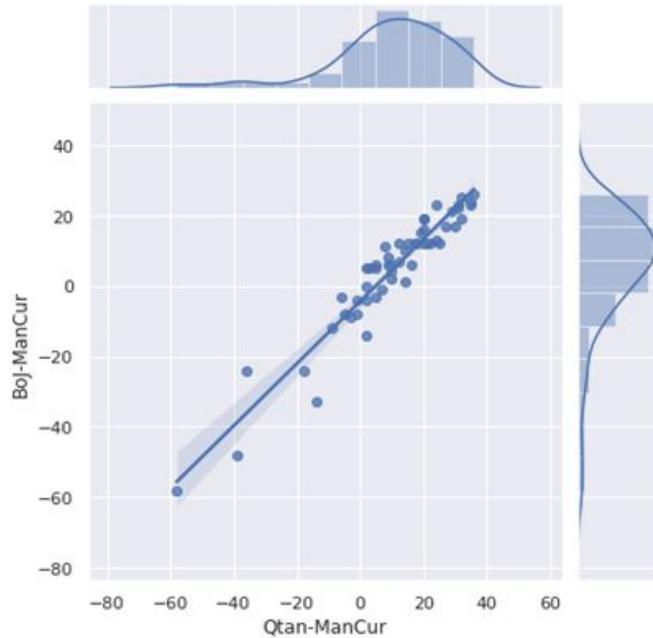


QUICK短観、日銀短観と連動 結果予測にも有用

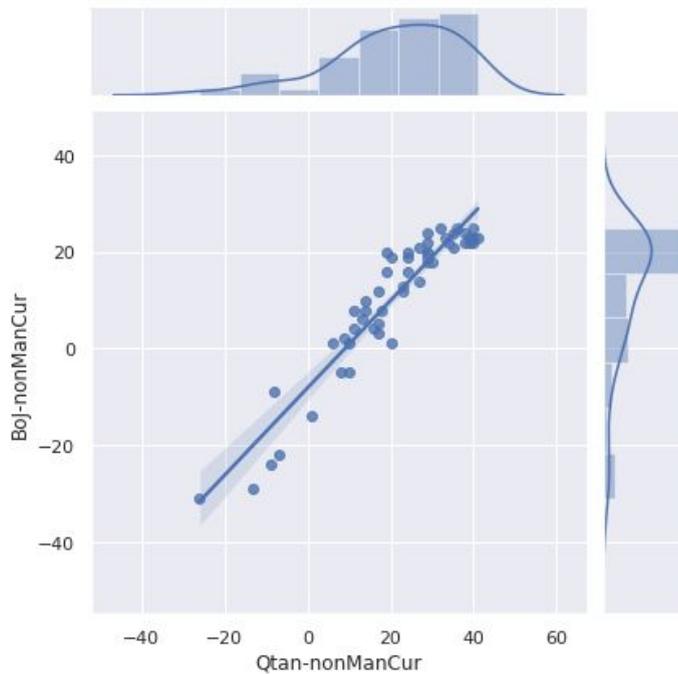
QUICK短観と日銀短観の業況判断指数（DI）の連動性を調べたところ、製造業DI・非製造業DIともに相関係数は0.9を超えており強い相関が確認できた。

日銀短観の大企業・製造業DIは日本企業の景況感を示す指標として市場の注目度が高いが、公表ペースが3カ月に1度のため速報性には欠ける。月次で公表され、日銀短観との連動性が高いQUICK短観のDIをみれば企業の足元の業況をいち早くチェックできる。

①QUICK短観の製造業DI（最近、横軸）と日銀短観の製造業DI（大企業・最近、縦軸）

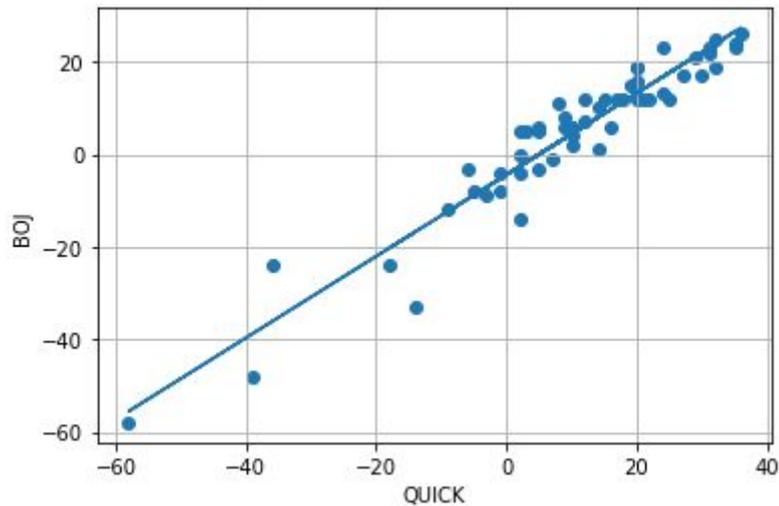


②QUICK短観の非製造業DI（最近、横軸）と日銀短観の非製造業DI（大企業・最近、縦軸）



実際に日銀短観の結果予想に使ってみるとどうなるか。2006年12月から2020年3月までのデータを用いて単回帰モデルで分析した。QUICK短観の製造業DIをX、日銀短観の製造業DIをYとして両者の関係を式で表すと次のようになった。

$$Y = 0.8821X - 4.411$$



6月15日に発表された6月のQUICK短観の製造業DIはマイナス32。これを上記の式に代入すると「マイナス35.52」という数値が得られる。その後、7月1日に発表された6月の日銀短観の製造業DIの値はマイナス34と近い数字となった。

上記の式の「決定係数」は0.91だった。決定係数は0～1の間で動き、1に近いほど式に利用した変数で説明できている割合が増す。